

チョウと 共生細菌は 共進化するか？

つくば進化生態学セミナー

筑波大学 第2エリア
総合研究A棟 107号室

2010年4月24日(土) 16:00~



講演者 |

成田聡子 博士 (農業生物資源研究所)

演題 |

共生細菌 *Wolbachia* の感染によって引き起こされるキチョウの性転換現象と細胞質不和合 ~ その相互作用と共進化

講演要旨 |

共生細菌ボルバキア (*Wolbachia*) は、節足動物の30%以上の種に感染しているとされており、自身の拡散が最大限になるように宿主の性や生殖を操作することが知られている。ボルバキアは、細胞質不和合、オス殺し、メス化、単為生殖などの方法を用いて、感染メスのみを宿主集団中に蔓延させることができる。

日本産キチョウ (*Eurema mandarina*) においては、1系統のボルバキアに感染して細胞質不和合が起こる個体群と2系統のボルバキアに重複感染してオスからメスへ性転換している個体群が見ついている。今回のセミナーでは、現在までの研究で明らかになってきたキチョウにおけるボルバキアによる生殖操作、その分子機構、生殖操作によって宿主キチョウが集団レベル・進化レベルでどのような影響を受けるのかについて紹介する。

世話人 | 高橋佑磨・田辺晶史・諸澤崇裕
連絡先 | yuyuyuyu@ies.life.tsukuba.ac.jp (高橋)
ウェブ | <http://tsukubaecology.web.fc2.com>

どなたでも参加できます。
懇親会もあります。